広報うだ 2020 8
第176号
令和2年8月1日 発行

編集・発行　宇陀市総務部 秘書広報情報課
〒633-0292 宇陀市榛原下井足17-3
Tel.0745-82-8000 Fax.0745-82-3900

宇陀市HP
udacity_official

UD FONT

龍穴（室生）

室生には、吉祥龍穴（妙吉祥龍穴）、沙羅吉祥龍穴、持宝吉祥龍穴、仙人の岩屋、護摩の岩屋、軍荼利の岩屋などと呼ばれている洞窟（窟）があります。今回は、今も信仰の対象となっている吉祥龍穴に伝わるお話をご紹介します。

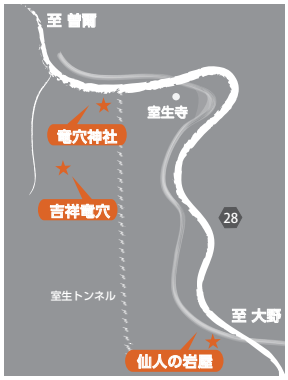
昔、ここには、善達龍王という龍王が棲んでいました。もともと奈良の猿沢池から春日山へと移動し、その後この龍穴へ移り棲んだといわれています。

室生寺の僧 賢璟が龍王に対面しようと龍穴に入ると、奥に宮殿がありました。簾の中からひとりの男が「何か用か」と尋ねると、賢璟は「龍王を拝みたい」と答えました。男は「ここは狭いので、龍穴の外で会おう」と言いました。

賢璟が外で待っていると、衣冠を身にまとった龍王が水面に現れました。賢璟は伏して拝みましたが、間もなく龍王の姿は消えました。その後、賢璟はここに龍王の像を刻んで祀りました。これが「龍穴神社」のはじまりといわれています。

（参考文献「室生村史」昭和41年）

▼龍穴神社本殿　奈良の春日大社若宮の社殿を寛文12年（1672）に移築したもので、県指定文化財となっています。



今月のPick Up

女人高野 室生寺 日本遺産認定！

大阪府河内長野市、和歌山県九度山町・高野町とともに申請しておりました「女人高野」が令和２年度「日本遺産」に認定されました。

「女人高野」を構成するのは宇陀市の室生寺、河内長野市の金剛寺、九度山町の慈尊院、高野町の女人堂、女人道を中心に、関連した彫刻や建造物など、計 25 件の文化財です。

今後、文化庁の支援を受けながら、広域観光での誘客や市内外での普及啓発などを行い、地域の活性化を図っていく予定です。

ストーリータイトル

「女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」

ストーリーの概要

高野山は、近代まで「女人結界」が定められ、境内での女性たちの参拝は叶わなかった。そんな時代にあっても女性たちの、身内の冥福を祈る声、明日の安らぎを願う声を聴いていた、「女人高野」と呼ばれるお寺があった。

優美な曲線を描くお堂の屋根、静かに願いを聴いている柔和なお顔の仏像、四季の移ろいを映す周囲の樹々、これらが調和した空間を『名所図会』は見事に実写し、表現している。

■日本遺産とは

日本遺産は、文化庁が認定した、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーです。

各地域の魅力あふれる有形や無形の文化財群を、地域が主体となって整備・活用し、国内外へ発信することで、地域の活性化を図ることを目的としています。